

## 平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	人のあたたかさやIT技術の情報で、人・街・駅・交通を活性化させるセンターづくり		
(2) 実施団体名	つくば市	(3) 対象地域	つくば市全域
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体	

(6)実施した取組の内容	<b>取組①</b>	<b>総合交流拠点の整備(社会実験)</b>	
	実施主体	つくば市	
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	実施内容、実施結果	<b>実施内容</b> ・TXつくば駅前に既設の案内(サイン)やIT機器の活用した情報提供の拡充 ・賑わいを創出し、つくば市玄関口の情報拠点・交流拠点として整備 ・駅から出て地上の要所で必要情報の提供 ・アンケート等の調査により利用者ニーズを踏まえて提供内容を検討 ・実験前・中の比較として満足度等の調査を行ない評価 <b>実施時期</b> : 平成20年11月～約1ヶ月 <b>実施場所</b> : つくば駅南北自由通路, つくば駅前広場 <b>取組の目的</b> 来訪者のわかりやすい案内提供により円滑な移動を確保する。	<b>実施内容</b> ・TXつくば駅前の既存サインを目立たせ、かつ情報が不足している内容については新たに設置して情報を拡充(内容はアンケートにて抽出) ・既存のタッチパネル式ディスプレイを活用し、ITを活用したサインを整備。市内主要施設(10施設)の公共交通乗り換え案内(徒歩、自転車、バス、サイエンスツアーでの案内)システムを構築し情報提供を実施 ・地上部分には地下の動線を考慮し連続したサインを設置 ・観光案内所の情報と連携させ、情報拠点・交流拠点として総合案内空間を整備 <b>実施時期、場所</b> 平成20年11月1日～11月30日 つくば駅南北自由通路, 駅前広場 <b>実験結果</b> サイン設置によりの確に来訪者を誘導でき、公共交通の見つけやすさの上昇(2割上昇)や滞留箇所数の減少(7割減少)など一定の効果が見られた。また設置箇所等の課題もあるがITを用いた案内システムも評価は高く今後の発展が望まれる。
<b>取組②</b>	<b>つくば市の観光施設を結ぶ周遊バス(社会実験)</b>		
実施主体	つくば市		
	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
実施内容、実施結果	<b>実施内容</b> ・市内の観光施設・名所を結ぶ周遊バスを導入し、期間内に定期運行する。走行ルート等は関係者間で協議し決定 ・TX各駅、総合交流拠点(取組み1)、観光施設等においてチラシの配布、専用ホームページの開設により幅広く広報を実施 ・実験前・中にアンケートを行ない満足度等を調査し、評価 <b>実施時期</b> 平成20年11月より1ヶ月程度 <b>実施場所</b> つくば市内 <b>取組の目的</b> TX開通後、顕著に増加しているつくばへの来訪者を筑波山中腹のみならず山麓も含め波及させ、活性化を図る。	<b>実施内容</b> ・筑波山麓の観光施設・名所を巡る循環式の観光バスを運行(40分間隔) ・運賃は事業化の際の乗車運賃の希望を抽出するために無料で運行 ・走行ルートは地元・関係機関で協議し、渋滞や要望等を踏まえ決定(1周90分) ・筑波山麓の魅力を伝えるため5分程度のプロモーションビデオを作成(つくば駅、筑波山観光案内所、インターネットにて放映) ・周遊バス利用者の利便性を高めるため、利用者に配布するガイドブックに載せる情報は事前にアンケートにて抽出(食事、お土産、温泉等) ・評価を行なうためバス利用者、非利用者に対してアンケートを実施(ルートの要望、金額の要望等) <b>実施時期、場所</b> 平成20年11月1日～11月30日 運行日:11/1～9の毎日及び金、土、日、祝日(1～9、14～16、21～24、28～30日) 筑波山・筑波山麓地域 <b>実験結果</b> 期間延乗車人員は約4,000人にも及んでおり、また山麓の施設の客数もかなりの伸びを見せている。筑波山来訪者の訪問箇所数においても1.3箇所から2.3箇所に増加しており、筑波山麓への波及が顕著に見られた。地域活性化への大きな効果が見られたため今後事業化に向けて本格的な検討・実験が望まれる。	

	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点																						
(7)実施体制	<p><b>取組み1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つくば市 研学地区整備推進課 総合取りまとめ、各機関の調整、情報提供方法、内容の企画、調査実施</li> <li>筑波大学 システム情報工学研究科 全般の指導・助言、調査実施</li> <li>茨城県 場所の提供(つくば駅南北自由通路(県道))</li> <li>交通事業者(首都圏新都市鉄道、関東鉄道) 交通情報の提供、案内の共通化</li> </ul> <p><b>取組み2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つくば市 研学地区整備推進課 総合取りまとめ、周遊バスの企画、各機関の調整、広報の企画・実施、周遊バスの運営、調査実施</li> <li>関東鉄道 ルート選定の協力、一般路線バスとの調整、広報支援</li> <li>首都圏新都市鉄道 広報支援、他イベントとの調整・タイアップ</li> </ul>	<p><b>取組み1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つくば駅等での筑波山への案内は各機関が個別に行なっており統一されていないという課題があったが、つくば市を中心に各関係機関が協議・連携することで情報の統一化が図れ、利用者の利便性向上が図れた。</li> <li>IT機器で案内する施設に関して掲載施設選定や調整が難航すると思われたが、市内主要施設と横断的連携を取っているサイエンスツアーオフィスと連携することでスムーズに行なうことができ、かつ横断的な連携が図れた。</li> </ul> <p><b>取組み2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光関係機関連携を密にとるため観光担当課である観光物産課において観光施設との調整、ルートの助言、他観光イベントとの調整を行なうことにより、より横断的な連携を図ることができた。</li> <li>当初周遊バスの休日の問い合わせ先をどうするか懸念事項であったが、つくば市観光協会にて問い合わせ窓口の一本化や広報支援、周遊バス運行支援等を実施することで市内観光窓口の一本化を図れた。</li> <li>バス運行地区の地元とどのように連携していくかが課題であったが、筑波山麓地区住民の集まりである筑波山麓地域づくり団体連絡協議会が商店街・住民との調整、ルートの助言、バス内のガイド実施、観光施設でのガイド実施、イベントの実施等を行なうことで地元との協働や活性化が図れた。</li> </ul>																						
(8)取組により得られた成果	<p>○成果1→ つくば駅への来訪者が、駅周辺で公共交通機関や目的地についての案内不足により不便を感じる度合いを軽減し、円滑な移動を実現する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20(当初予定していた目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共交通の利用しやすさ(5点満点) : 2.7点</td> <td>公共交通の利用しやすさを2.7点から3.5点に引き上げる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>効果をより正確に調査するために実験前、実験中に調査を実施</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>バスの見つけやすさ(公共交通の見つけやすさ)</td> <td>実験前 2.78点 → 実験中 3.30点 (5点満点) 当初の目標をほぼ達成</td> </tr> <tr> <td>サイン設置箇所以外での滞留箇所数</td> <td>実験前 12箇所 → 実験中 4箇所 (10人以上の滞留箇所) 迷う人の減少</td> </tr> <tr> <td>設置サインの利用しやすさ(実験中のみ)</td> <td>アナログサイン: 4.1点 IT機器を利用したサイン: 3.5点 (5点満点) 設置サインの評価高</td> </tr> </tbody> </table> <p>↓</p> <p>サインの設置により来訪者を円滑に誘導できているため、サイン設置の効果は見られた。今後さらに利用者の行動を分析し、分かりやすいサインを設置していくことが望まれる。アンケート結果によりデザインに今後工夫が必要である。(目立たないとの意見があったため)</p> <p>○成果2→ TX開通後、顕著に増加しているつくばへの来訪者を、筑波山のみならずつくば市周辺(山麓)にも訪れてもらい、実験エリアを活性化する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20(当初予定していた目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1訪問者あたりの訪問箇所数 : 1.3箇所</td> <td>1訪問者あたりの訪問箇所数を1.3箇所から2.0箇所に引き上げる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>H20(実際に得られた成果)</p> <p>効果を正確に調査するために周遊バス利用者と非利用者にアンケートを実施</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>訪問箇所数</td> <td>バス非利用者 1.3箇所 → バス利用者 2.3箇所 1箇所上昇し、目標達成</td> </tr> <tr> <td>周遊バス乗車総人員</td> <td>3946人(19日間 一日平均208人) 相当の乗車人員が見込めた</td> </tr> <tr> <td>周辺施設への効果(3店舗入り込み客数)</td> <td>10月 → 11月 約4.1倍(但し1店舗利用可能上限人数に達したため除いている)</td> </tr> <tr> <td>筑波山の満足度(とても魅力を感じた人の割合)</td> <td>非バス利用者 33% → バス利用者 59% 周遊バスの効果が現れた</td> </tr> </tbody> </table> <p>↓</p> <p>周遊バス利用者は非利用者より筑波山への満足度が高くなっており、また周辺施設への客数も多いためかなりの効果が見込めた。また地元と協働で実施することにより地元の活性化への意欲向上や団結力向上等側面効果も幅広く現れた。</p>	H19	H20(当初予定していた目標)	公共交通の利用しやすさ(5点満点) : 2.7点	公共交通の利用しやすさを2.7点から3.5点に引き上げる。	バスの見つけやすさ(公共交通の見つけやすさ)	実験前 2.78点 → 実験中 3.30点 (5点満点) 当初の目標をほぼ達成	サイン設置箇所以外での滞留箇所数	実験前 12箇所 → 実験中 4箇所 (10人以上の滞留箇所) 迷う人の減少	設置サインの利用しやすさ(実験中のみ)	アナログサイン: 4.1点 IT機器を利用したサイン: 3.5点 (5点満点) 設置サインの評価高	H19	H20(当初予定していた目標)	1訪問者あたりの訪問箇所数 : 1.3箇所	1訪問者あたりの訪問箇所数を1.3箇所から2.0箇所に引き上げる。	訪問箇所数	バス非利用者 1.3箇所 → バス利用者 2.3箇所 1箇所上昇し、目標達成	周遊バス乗車総人員	3946人(19日間 一日平均208人) 相当の乗車人員が見込めた	周辺施設への効果(3店舗入り込み客数)	10月 → 11月 約4.1倍(但し1店舗利用可能上限人数に達したため除いている)	筑波山の満足度(とても魅力を感じた人の割合)	非バス利用者 33% → バス利用者 59% 周遊バスの効果が現れた	
H19	H20(当初予定していた目標)																							
公共交通の利用しやすさ(5点満点) : 2.7点	公共交通の利用しやすさを2.7点から3.5点に引き上げる。																							
バスの見つけやすさ(公共交通の見つけやすさ)	実験前 2.78点 → 実験中 3.30点 (5点満点) 当初の目標をほぼ達成																							
サイン設置箇所以外での滞留箇所数	実験前 12箇所 → 実験中 4箇所 (10人以上の滞留箇所) 迷う人の減少																							
設置サインの利用しやすさ(実験中のみ)	アナログサイン: 4.1点 IT機器を利用したサイン: 3.5点 (5点満点) 設置サインの評価高																							
H19	H20(当初予定していた目標)																							
1訪問者あたりの訪問箇所数 : 1.3箇所	1訪問者あたりの訪問箇所数を1.3箇所から2.0箇所に引き上げる。																							
訪問箇所数	バス非利用者 1.3箇所 → バス利用者 2.3箇所 1箇所上昇し、目標達成																							
周遊バス乗車総人員	3946人(19日間 一日平均208人) 相当の乗車人員が見込めた																							
周辺施設への効果(3店舗入り込み客数)	10月 → 11月 約4.1倍(但し1店舗利用可能上限人数に達したため除いている)																							
筑波山の満足度(とても魅力を感じた人の割合)	非バス利用者 33% → バス利用者 59% 周遊バスの効果が現れた																							

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p><b>取組み1</b>          ・アナログサイン → 来年度市の財源による本設置に向け準備を開始(利用者の意見である見にくい、トイレの案内が不足、バス情報の拡充、ママに分かりやすいルート表示などを十分に考慮する)          ・IT機器を活用したサイン → 一定の効果が見られたが、周辺施設情報・商業施設情報・観光施設情報の掲載要望など様々な情報の複合化を望む声があった。そのため今後つくば市内において集客拠点から周辺への交通手段の確立とともにITを活用して集客拠点で地元商業事業者等と連携した地域商業情報、交通情報を複合的に提供する事で地域の経済活性化を図ることが重要である。その確立に向けある拠点にて実証実験を実施する。</p> <p><b>取組み2</b>          ・今回の実験で、筑波山を集客拠点として山麓への観光客波及効果が見られた。一方で経済的な具体的利益享受の面からは、更なる山麓への来訪者増加が不可欠な状況である。そのためには筑波山来訪者数の底上げが重要な鍵となる。その確立に向け、山麓も含め更なるつくば市域の活性化及び、市域を越えた筑波山全体の更なる筑波山活性化を行なう必要がある。これにより将来的に筑波山地域観光圏の確立を目指す。          ・山麓への観光客波及の手段として用いた周遊バスは、手段としての有効性が確認されたが、単独採算面では厳しい現状であった。今後は、観光波及効果、経済波及効果も考慮した地元事業者、観光協会等との共同運行も踏まえ、地元を中心とした観光活性化を目指した運営体制を確立させる必要がある          ・今回、地元住民(団体)と行政が連携した地域の活性化を行ない相乗効果が見られた。今後地元及び地元商業事業者と協力した地域活性化を行なうことが最も重要である。更なる観光資源発掘を目指し、地元と協力した観光魅力づくりを進める。</p>	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1. バスロケーションシステムとの連携</p> <p>2. 周遊バスルートの拡大</p> <p>3. 市内全域の提供情報・媒体の拡充</p> <p>4. 周遊バス事業化に向けた採算性、運用の課題検討</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>2. で実施</p> <p><b>2. 本格運行に向けた周遊バス運行の実験</b></p> <p>・将来目標          筑波山集客効果の地域波及、筑波山観光の底上げ。観光経済効果も含めた地元とも連携によるバス運営体制を確立し、地域観光圏の確立を目指す。</p> <p>・実施主体：つくば市、筑波山麓地域づくり団体連絡協議会</p> <p>・21年度実施内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポイント</p> <p>①筑波山の拠点性強化とP&amp;R等観光地交通対策 ②筑波山観光客の山麓全体への波及</p> </div> <p>○他バス路線・サイエンスツアー(中心部周遊バス)との連携による市域への波及効果拡大          ○筑波山の渋滞緩和を踏まえた周遊バスを活用したパークアンドバスライド(P&amp;BR)の実施          ○本格運行に向けて経済波及効果の検証や事業化方法の検討</p> <p>[活用を希望する制度：地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額3,000万円)]</p> <p><b>3. ITを活用したつくば総合情報システムの構築検討</b></p> <p>・将来目標          集客拠点における情報の集約化、複合化による地域経済活性化、集客拠点性の向上</p> <p>・実施主体：つくばITサイン検討協議会(つくば市、筑波大学、国総研、商業・交通事業者等)</p> <p>・21年度実施内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポイント</p> <p>①筑波山神社付近の滞在拠点化に向けた情報の集約化、複合的情報の提供          ②筑波山周辺事業者等、民間事業者と連携した案内システム</p> </div> <p>○筑波山周辺の店舗、観光地、イベント、交通情報を複合的に案内し、大型タッチパネル式端末で情報提供(つくば駅、観光案内所での提供、携帯との連携、首都圏方面での提供)          ○筑波山周辺事業者と協力し、目的地周辺地図を持参すると割引等の優遇措置の検討          ○将来の拡大運用も踏まえた商業ベースでの民間事業者との協力・事業スキームの検討</p> <p>[活用を希望する制度：地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1,500万円)]</p> <p>2. で実施</p>

◆主な実施取組の内容◆

取組①：総合交流拠点の整備(社会実験)

実施主体：つくば市

実施内容

- ・つくば駅南北自由通路、駅前広場に不足していた情報を抽出し、サインを設置
- ・既存のIT機器を活用し、市内主要施設(10施設)の公共交通乗り換え案内システムを構築(バス、自転車、徒歩等複数手段の情報を提供)

実験結果

- ・公共交通の見つけやすさ 実験前 2.78点 → 実験中 3.30点(5点満点)
- ・サイン箇所以外での滞留箇所数 実験前 12箇所 → 実験中 4箇所
- ・設置サインの利用しやすさ アナログサイン 4.1点 IT活用のサイン 3.5点(5点満点)



取組②：つくば市の観光施設を結ぶ周遊バス(社会実験)

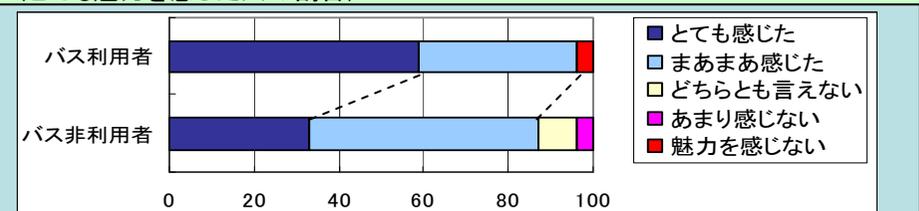
実施主体：つくば市

実施内容

- ・筑波山麓の観光施設を巡る循環式の観光バスを運行(1周90分、40分間隔で運行)
- ・走行ルートは地元・関係機関と協議して決定。運賃は支払想定金額抽出のため無料
- ・筑波山麓の魅力を伝えるプロモーションビデオ作成

実験結果

- ・観光客の訪問箇所数 バス非利用者 1.3箇所 → バス利用者 2.3箇所
- ・バス乗車人員 3946人(19日間 一日平均208人)
- ・筑波山への満足度 バス非利用者 33% → バス利用者 59% (とても魅力を感じた人の割合)



◆取組実施による成果・今後の展開◆

20年度は中心から目的地までの誘導を円滑化  
→ 集客拠点の情報集約化、複合化による拠点機能向上

ITの力を活用

つくばの全域に活力創出

その前段の実験として

- ・ITを活用し筑波山神社付近における情報集約化
- ・民間事業者と連携した案内システムの実験



20年度は筑波山麓へ波及(市内)

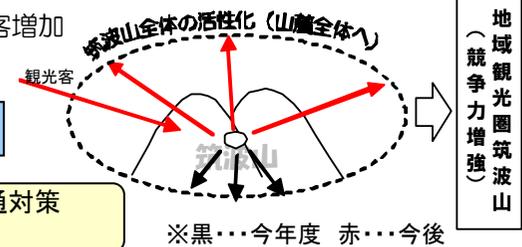
→筑波山集客効果の地域波及、観光客増加

地元の力を引き出す

地域観光圏 筑波山

その実験として

- ・筑波山の拠点性強化とP&R等の交通対策
- ・筑波山観光客の山麓全体への波及



地域観光圏筑波山  
(競争力増強)